

別紙 1

【龍谷大学政策学部・政策学研究科 10 周年記念 プロモーションビデオ 抜粋】



昨年、卒業式ができなかった卒業生 2020 年 6 月に取り壊した図書館前階段で記念撮影



「革靴をはいた猫」(障がいのあるスタッフが靴磨き・修理職人として活躍) 左上から2段目

「アカイノロシ」(フェアトレードコーヒー) 3段目中央 卒業と同時に社会的企業を起業

左上2枚は、学外活動を行うゼミやフィールドワーク その他 活躍する卒業生たち

別紙 2

【政策学部 10 周年 イメージ楽曲「ツナガル」歌詞】

「ツナガル」

離れているようでつながっている
きっとどこかでくっついているんだ

棚の奥から出てきた卒業アルバムの
ページひらりめくった
私もみんなも案外昔と変わらない
時はタイムスリップ

カフェの Wi-fi
先祖代々
刻み切れなかった長ネギ
離れているようでつながっているの！

それぞれの道へ進んでも
なぜか近くにいる気がするんだ
そう感じてるの

ふいに思い出しちゃうような
笑い話に救われているから

雨の予報が変わってなんだか晴れそう
サンダルで出かける

カフェの Wi-fi
先祖代々
友達と友達が友達
離れているようでつながっているの！

今日のささいなラッキーも
いつかの私からのプレゼント
そう信じてるの

空に高く投げたボールは
時間をかけて返ってくるから

離れているようでつながっている
きっとどこかでくっついてるんだ

この瞬間も
過去と未来につながっている
運や縁もくっついてるんだ

顔も知らないあなたと
私もすでにつながっている？
もしかしてもう出会っている！？

つながっていたら おもしろい！

別紙 3

【龍谷大学政策学部の特徴】

龍谷大学政策学部は、グローバルな視点を持ちつつ、多様な地域の現場で地域が抱える課題を発見して、解決していく地域公共人材を育てることを教育の目標としています。

教育目標を達成するために特に学生と教員、学生同士がより身近に学び合うことを重視して小集団の授業を設けています。特に政策的課題は、現場で発見できることから、正規の授業科目のみならず、課外においてもフィールドワークやインターンシップなど地域、企業やNPOの現場に入り現場を知る機会を多く用意しています。こうした課題解決に必要とされる専門知識や技能を、深く身につける実践的学習、地域や企業の現場に根ざした学生の主体的な学び(アクティブ・ラーニング)や課題解決型の学び方(**Problem-based Learning**)を重視しています。

伏見いきいき市民活動センターと連携した自発性を尊重した地域活動「Ryu-SEI GAP^{※1}」、福知山・守山、洲本、京丹後、亀岡で展開される政策実践・探究演習^{※2}が具体的な取り組みとして挙げられます。

個性的かつ「チーム政策」を体現していく学びは、高く注目されています。

開設 10 年、数字にもそれは現れており、例えば、龍谷大学学生生活実態調査報告書 2018 年度版では、学部・学科の満足度について「よかった」85.1%(私大連平均 67.5%)とハイスコアであり、ベネッセ i-career による GPS アカデミック調査では「相談できる友人／教員がいる」割合が全国平均に比べ非常に高いといえる数値にあります。「ちょっとしたことでも相談できる教員がいる」→「非常にあてはまる」30.3%(全国平均 10.9%)、「ややあてはまる」26.5%(全国平均 25.2%)。「大学の校風や雰囲気は自分に合っている」→「非常にあてはまる」44.4%(全国平均 16.5%)、「まったくあてはまらない」1.7%(全国平均 5.1%)といった調査も注目できる点です。

コロナ禍にあっても、専任教員が担当する基礎演習(1回生が全員履修する少人数演習)で、「誰ひとりとり残さない」ための対応や、担当者会議を通じた情報やオンライン講義ノウハウの共有、後期対面講義の再開後は、学外ゼミ活動を支援するため、学生負担無料の PCR 検査体制を整備しました。

検査時に陰性であることが確認できるため、学生も地域も安心して地域で実習することが可能になっています。学生支援策として龍谷大学が行った食料品援助、食事クーポンの配布などのボランティアにも学生・教職員が積極的に参加しました。コロナ禍中のゼミ活動も、たびたび多くのメディアで紹介されているところです。

政策学部が設置されたのは 2011 年 4 月で、同年 3 月 11 日には、東日本で大きな震災が起こり、政策学部が 10 周年を迎えた 2020 年にはコロナ禍という世界中に大きな被害をもたらす事象が起きています。

政策学部設立から 10 年間という期間で教職員、学生の努力と地道な活動が、信頼とこれまでになかったつながりを作ってきました。その大切さを今改めて認識しています。

これまでのご支援に感謝をこめて「ツナガル」想いをこめた楽曲と支えてくださった皆様、現場に根ざした活動をおこなう学生、卒業生、教職員を PV という映像にして発表いたします。

※1 Ryu-SEI GAP(龍谷大学 政策学部 Glocal Action Program)

学生が主体となって、教職員と一緒に正課や課外で地域社会の課題解決に取り組む、実践型プログラムです。

2011 年龍谷大学政策学部と特定非営利活動法人きょうと NPO センターは「京都市いきいき市民活動センター(伏見・東山)」の運営に関する相互協力の協定を締結し、調印式および記者会見をおこないました。2015 年よりきょうと NPO センターから発展した「有限責任事業組合まちとしごと総合研究所」との連携のもとカリキュラム運営を行っています。大学がこのような形で公共施設の運営に関わるのは全国初であり、新たな公共施設のあり方や運営モデルの構築をめざすプロジェクトの 1 つが Ryu-SEI GAP になります。

GAP の活動拠点は大学ではなく、「京都市伏見いきいき市民活動センター」です。GAP 生は、社会の課題を見つけ出す力を養い、その解決のため、プランの企画から実施までを担い、地域の多様な人々と連携して取り組みを行っています。

※2 政策実践・探究演習(国内)

龍谷大学政策学部の専門科目「政策実践・探究演習(国内)」では、4 プロジェクト(福知山・守山、洲本、京丹後、亀岡)を各 20 名程度が受講し、専門知識・理論の他、プロジェクト現場での体験をベースにより深く実践・探究(アクティブ・ラーニング)をすすめています。

地域での実践を通じた学生の学びの目標は、①地域社会の課題解決の現場において、自分の役割を見つけること、②気候変動の緩和などグローバルな課題と地域活性化などのローカルな課題の両面(グローバルな課題)の解決に資する企画を考えること、③プロジェクトの成果や課題を社会に発信すること、④明確な将来像を描き、継続的な地域との連携の仕組みを構築することです。